

資料

- ① 構成メンバー
- ② 研究プロジェクト一覧
- ③ 協力研究者一覧
- ④ シンポジウム・セミナー一覧
- ⑤ 新規収蔵図書・資料
- ⑥ 電子化イベント一覧
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学
ジェンダー研究所規則
- ⑧ 『ジェンダー研究』 編集方針・
投稿規定
- ⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト
プライバシー・ポリシー

【資料】①構成メンバー

【所長】

戸谷陽子(基幹研究院人文科学系・文教育学部教授)

《任期》

2021(R3)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【専任教員】

申琪榮(ジェンダー研究所教授)

2015(H27)年4月1日～

大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)

2018(H30)年9月1日～

【学内研究員】

棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2025(R7)年3月31日

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2025(R7)年3月31日

石丸徑一郎(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

2021(R3)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【特任講師】

嶽本新奈

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【特任リサーチフェロー】

本山央子

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【特任アソシエイトフェロー】

黒岩漠

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【アカデミック・アシスタント】

稲垣明子

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

梅田由紀子

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

関根里奈子

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

滝美香

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

花岡奈央

2024(R6)年4月1日～2024(R6)年7月31日

許美善

2024(R6)年8月1日～2025(R7)年3月31日

和田容子

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【客員研究員】

足立真理子(お茶の水女子大学名誉教授)

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【研究協力員】

板井広明(専修大学経済学部教授)

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

平野恵子(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

仙波由加里(一般社団法人ドナーリンク・ジャパン代表理事)

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

英美由紀(藤女子大学教授)

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日

左高慎也(独立行政法人日本学術振興会特別研究員(PD))

2024(R6)年4月1日～2025(R7)年3月31日



所長 戸谷 陽子

基幹研究院人文科学系・教授

文教育学部言語文化学科英語圏言語文化コース

博士前期課程比較社会文化学専攻英語圏・仏語圏文化学コース

博士後期課程比較社会文化学専攻言語文化論領域

専門分野: 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、文化政策、比較演劇論

所属学会等

日本英文学会

日本アメリカ文学会(東京支部評議員・編集委員)

日本アメリカ演劇学会(評議員)

日本アメリカ学会

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構(学位審査会専門委員会座長代行)

主な業績

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:20K00385)「米国舞台・表象空間における日本人ストックキャラクターの系譜と展開」、2020 年度～2024 年度、研究代表者



専任教員(教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻(専攻長) ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻
生活科学部生活社会科学講座

2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日

George Washington University, Elliott School of International Affairs Visiting
Scholar

専門分野: ジェンダーと政治、比較政治学(東アジア)、
フェミニズム理論、#MeToo、クオータ制、男女共同参画政策

所属学会等 International Political Science Association, American Political Science Association

European Conference on Gender and Politics, International Association for Feminist Economics

日本政治学会、日本比較政治学会、日本社会政策学会、日本フェミニスト経済学会、
「女性・戦争・人権」学会(運営委員)

ソウル大学日本研究所『日本批評』、西江大学社会科学研究所『社会科学研究』、

釜山大学女性学研究所『女性学研究』、イギリス政治学会『Politics』、ECGP 学会誌『European
Journal of Politics and Gender』編集委員

『ジェンダー研究』編集長

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リ
ーダー育成型) 岩手大学『I.W.A.T.E. 1 in 3 女性リーダー職研究者倍増プラン』アドバイザリー
ボード委員会委員長

主な業績

《論文等》

Shin, Ki-young and Ah-ran Hwang, 2024. "Who Support Gender Quota Legislation and Why?" Taiwan Journal of
Democracy 20(1): 95-113

신기영, 2024. 「2000 년대 이후 일본에서 나타난 두 번의 젠더 백래시(Two Gender Backlashes in Japan
Since the 2000s)」『일본학보』139: 53-72.

『はじめて向きあう韓国』『コラム #MeToo 社会変革を導いた連帯の力』p.154(2024 年 浅羽祐樹編 法律文化
社)

『ジェンダー・クオータがもたらす新しい政治』「第 5 章 韓国:クオータ制の成果と分かれる国会議員の意識」pp.
127-146(2024 年 三浦まり編 法律文化社)

申琪榮, 2025. 「女性運動」『比較政治学事典』日本比較政治学会編 丸善出版

《招聘講演》

“Why Do We Need More Women in Politics in East Asian States?” Open Society Workshop, Taipei 2024. 4. 22

DEMOCRACY AND GENDER INEQUALITY IN EAST ASIA: INSTITUTIONAL AND PERCEPTIVE、
Discussant, American University School of International Service 2024.11.11

“Backlash Against Gender Quotas to Enhance Women’s Political Representation in South Korea” University of
Pennsylvania James Joo-Jin Kim Center for Korean Studies 2025.1.30

“How Far Have We Come to Achieve Justice?” Middlebury University Japanese Studies Department 2025.2.27

《競争的資金》

- ・ 科学研究費 挑戦的研究(萌芽)(課題番号:24K21404)「ジェンダーパリティ議会の実態調査による日韓比較」、
2024 年 6 月 28 日～2026 年 3 月 31 日、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:23H03654)「フェミニズム理論による新たな国家論の構築:ケア概念と安全保障概念の再構想から」、2023～2026 年度(研究代表者:岡野八代・同志社大学)、研究分担者



専任教員(准教授) 大橋 史恵

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

文教育学部グローバル文化学環

専門分野: ジェンダー研究、国際社会学、中国地域研究

所属学会等 International Association for Feminist Economics

日本社会学会、関東社会学会、

日本フェミニスト経済学会(幹事会役員、『経済社会とジェンダー』編集長)

ジェンダー史学会、現代中国学会、中国女性史研究会

経済理論学会分野別ジェンダー分科会

主な業績

《論文》

大橋史恵「現代中国におけるフェミニズムの連帯の系譜——セクシュアリティの自由をめぐる——」、鄭浩瀾編著『流動する中国社会——疎外と連帯』、慶應義塾大学出版会、2025年、pp.183-207。

大橋史恵「植民地期香港における家事使用人の『老後』——クィア・アプローチから考える——」『現代中国』第98号、pp.5-19、2024年。

《学会報告》

OHASHI, Fumie “Who Took Care of Migrant Care Workers?: Retirement Plans of Cantonese Domestic Servants in Colonial Hong Kong”, Paper presented at the 2024 IAFFE Annual Conference, Sapienza University in Rome, Italy.

《競争的資金》

科学研究費基盤研究 B(課題番号:23H00888)「日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究」、2023年度～2025年度(研究代表者:定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者

科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12603)「香港における移住女性の再生産労働力配置—「グローバル・シティ」のジェンダー分析」、2019年度～2024年度、研究代表者

科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化B)(課題番号:21KK0033)「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」、2021～2024年度(研究代表者:堀口正・大阪公立大学)、研究分担者



特任講師 嶽本 新奈

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

専門分野: 歴史学、歴史社会学、ジェンダー研究

所属学会等 ジェンダー史学会
総合女性史学会
歴史科学協議会
女性・戦争・人権学会
社会学研究会
日本フェミニスト経済学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析」(17 頁参照)／「反公害／環境運動史におけるジェンダー分析」(17 頁参照)／『からゆきさん』にみる性・移動・再生産領域」(19 頁参照)
- ・ IGS セミナー「沖縄における共有地とジェンダー」コーディネーター・司会(39 頁参照)
- ・ IGS-AIT 交流事業:「AIT ワークショップ報告会」企画・コーディネーター・司会(52～53 頁参照)／IGS-AIT 交流事業:『2024 年度 AIT ワークショップ実施報告書』編集担当(52～53 頁参照)
- ・ 「国際社会ジェンダー論」講義担当
- ・ 担当セミナーのウェブサイト用報告書(各日本語・英語)の翻訳・監修
- ・ 『ジェンダー研究』編集スタッフ(58～60 頁参照)。主に特集、一般投稿論文担当。ほか『ジェンダー研究』編集刊行業務全般の統括
- ・ IGS 研究協力員研究報告会、企画・コーディネーター・司会(41 頁参照)ならびにウェブサイト用報告原稿作成。

主な業績

《書評》

- 2024 「書評・寺澤優『戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会——売買春・恋愛の近現代史』」、「ジェンダー研究」お茶の水女子大学ジェンダー研究所、27 号。
- 2024 「書評・山家悠平『生き延びるための女性史——遊郭に響く〈声〉をたどって』」、「図書新聞」、3641 号。

《学会報告・講演》

- 2024 「反公害／環境運動で見落とされてきたケア労働——荅北石炭火力発電所建設反対運動を事例として」、日本フェミニスト経済学会、2024 年 8 月 3 日(専修大学)
- 2024 「Karayuki-san's decisions and experiences after retiring from sex work: Focusing on a women's end-of-life care」、International Association For Feminist Economics、2024 年 7 月 3 日(Rome, Italy)

《他大学講演》

- 2024 神田外国語大学「ジェンダー論 B」、ゲスト講義、6 月 11 日
- 2024 慶應義塾大学「『からゆきさん』からみる帝国日本の労働と性」、協生環境推進室ジェンダー・セクシュアリティ論連続公開講座、10 月 22 日
- 2024 専修大学「シベリア地域の『からゆきさん』とそのネットワーク——尼港事件顛末で忘却されたもの」、科研「19-20 世紀転換期ドイツ・中東欧における反人身売買運動の国際化に関する研究」研究会、11 月 16 日
- 2025 福岡女子大学「国際社会とジェンダー」ゲスト講義 1 月 7 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:23K11676)『『からゆきさん』にみる性・移動・再生産領域』、2023 年～2025 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 A(課題番号:24H00106)『『奴隷制の想像力』——地中海型奴隷制度論の動態的検討』2024 年～2027 年度(研究代表者:清水和裕・九州大学)、研究分担者



特任リサーチフェロー 本山 央子

専門分野: ジェンダー研究、フェミニスト国際関係・国際政治経済学

所属学会等 日本平和学会
国際政治学会
国際ジェンダー学会
日本フェミニスト経済学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー」(17 頁参照)／「日本による親ジェンダー外交の展開: 安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析」(20 頁参照)／「フェミニズム理論による新たな国家論の構築: ケア概念と安全保障概念の再構想から」(18 頁参照)
- ・ 国際ワークショップ「アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー」企画・報告(35 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』28 号特集国際シンポジウム「フェミニズムとコモニング」司会(23 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』27・28 号編集(58～60 頁参照)
- ・ 海外からの問合対応・客員研究員受け入れ対応

主な業績

《学会報告・講演》

- 2025 "Imperialism and feminism in the new security policy of Japan," presentation at International Studies Association (ISA) 2025 Annual Convention – March 2-5, 2025, Chicago
- 2024 「帝国主義とフェミニズムの新しい関係？ 価値の外交とジェンダー主流化」日本国際政治学会 2024 研究大会
2024 年 11 月 15～17 日 @ 札幌コンベンションセンター
- 2024 「日本の国家安全保障再定義と普遍的価値・ジェンダーの領有」日本平和学会 2024 春季研究大会自由論題部
会 2024 年 6 月 1 日 @ 学習院大学
- 2024 “Feminist agenda in imagined fraternity: A study of 2023 G7 Hiroshima summit”, presentation at
International Studies Association (ISA) 2024 Annual Convention - April 3rd - 6th, 2024

《競争的資金》

- 科学研究費若手研究(課題番号: 23K17134) 「日本による親ジェンダー外交の展開: 安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析」、2023～2027 年度、研究代表者
- 科学研究費基盤研究 B(課題番号: 23H03654) 「フェミニズム理論による新たな国家論の構築: ケア概念と安全保障概念の再構想から」、2023～2026 年度(研究代表者: 岡野八代・同志社大学)、研究分担者

●学内研究員



学内研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程 比較社会文化学専攻

人間文化創成科学研究科 博士前期課程 ジェンダー社会科学専攻

専門分野: 文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、
セクシュアリティ研究

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー



学内研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程 人間発達科学専攻

人間文化創成科学研究科 博士前期課程 人間発達科学専攻

専門分野: 子ども社会学、教育学

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー



学内研究員 石丸 径一郎

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部心理学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学領域

人間文化創成科学研究科 博士前期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学コース

専門分野: ジェンダー心理学、認知行動療法

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー

『ジェンダー研究』編集委員

●客員研究員



客員研究員 足立 真理子

(本学名誉教授)

委嘱期間: 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

研究プロジェクトタイトル

資本と身体 of ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々

●研究協力員



研究協力員 板井 広明

(専修大学経済学部教授)

委嘱期間:2024年4月1日～2025年3月31日

研究プロジェクトタイトル

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

ベンサムの性的快楽主義の位相:同性愛行為の非犯罪化論と女性の地位の変革



研究協力員 平野 恵子

(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)

委嘱期間:2024年4月1日～2025年3月31日

研究プロジェクトタイトル

日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究(科学研究費基盤研究B 課題番号:23H00888)

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

インドネシア家事労働者保護法案を取り巻く現状



研究協力員 仙波 由加里

(一般社団法人ドナーリンク・ジャパン代表理事)

委嘱期間:2024年4月1日～2025年3月31日

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

日本における精子の親族提供



研究協力員 英 美由紀

(藤女子大学教授)

委嘱期間:2024年4月1日～2025年3月31日

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

モナ・アワード『ファットガールをめぐる13の物語』:ケア、ネットワーク、第四波フェミニズム



研究協力員 左高 慎也

(学振PD)

委嘱期間:2024年4月1日～2025年3月31日

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

フェミニスト制度論的政治理論に基づいた『ジェンダー平等のための議会』の考察:制度の『経験的分析』から『規範的構想』へ

●特任アソシエイトフェロー



特任アソシエイトフェロー 黒岩 漠

主担当業務:ジェンダー研究所事務局統括

- ・ ジェンダー研究所全体予算管理
- ・ 『ジェンダー研究』編集員
- ・ 国際シンポジウム等運営
- ・ 各種報告書・データ作成 ほか

●アカデミック・アシスタント



アカデミック・アシスタント 稲垣 明子

主担当業務:シンポジウム等運営関連

- ・ AIT ワークショップ事務
- ・ 研究所事業事務(大学本部各種調査対応含む)
- ・ 会計事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

主担当業務:文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理関連

- ・ IGS 史料電子化プロジェクト電子化作業管理
- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ 会計事務
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 関根 里奈子

主担当業務:広報・情報機器管理

- ・ ウェブサイト・SNS・メーリングリスト等による情報発信・広報
- ・ シンポジウム・セミナー・研究会ポスター作成
- ・ オンラインイベント開催時の Zoom Webinar ホスト担当
- ・ 情報機器・ネットワーク管理 IGS ウェブサイト運営技術担当、情報更新作業 ほか

●アカデミック・アシスタント



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主担当業務:会計事務関連

- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 花岡 奈央

主担当業務:広報・情報機器管理

- ・ ウェブサイト・SNS・メールリスト等による情報発信・広報
- ・ オンラインイベント開催時の Zoom Webinar ホスト担当
- ・ IGS ウェブサイト運営技術担当、情報更新作業
- ・ IGS セミナーの企画・運営
- ・ AIT ワークショップ コーディネーター ほか



アカデミック・アシスタント 許 美善

主担当業務:広報・情報機器管理

- ・ ウェブサイト・SNS・メールリスト等による情報発信・広報
- ・ オンラインイベント開催時の Zoom Webinar ホスト担当
- ・ IGS ウェブサイト運営技術担当、情報更新作業



アカデミック・アシスタント 和田 容子

主担当業務:成果発信関連

- ・ 年次事業報告書編集
- ・ 『ジェンダー研究』日本語原稿校閲
- ・ 成果発信日本語原稿校閲
- ・ 葉・リーフレット企画制作
- ・ 会計事務
- ・ 研究所事業事務補佐 ほか

【資料】② 2024 年度研究プロジェクト一覧

1) IGS 研究プロジェクト

プロジェクト名	担当
「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究	申
東アジアにおけるエコロジーと生存のフェミニスト分析	大橋
資本と身体ジェンダー分析	大橋・足立・板井
性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析	嶽本
反公害／環境運動史におけるジェンダー／フェミニズム分析	嶽本
グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー	本山
文学・芸術文化表象とジェンダー	戸谷

2) 外部資金による研究プロジェクト

プロジェクト名称	期間(年度)	担当
科学研究費 挑戦的研究(萌芽)(課題番号:24K21404) ジェンダーパリティ議会の実態調査による日韓比較	2024～2025	申
科学研究費基盤研究 B(課題番号:23H03654) フェミニズム理論による新たな国家論の構築:ケア概念と安全保障概念の再構想から	2023～2026	申 本山 (分担者)
科学研究費基盤研究 B(課題番号:23H00888) 日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究	2023～2025	大橋 平野 (分担者)
科研費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 B)(課題番号:21KK0033) 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー	2021～2024	大橋 (分担者)
科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12603) 香港における移住女性の再生産労働力配置:「グローバル・シティ」のジェンダー分析	2019～2024	大橋
科学研究費基盤研究 C(課題番号:23K11676) 「からゆきさん」にみる性・移動・再生産領域	2023～2025	嶽本
科学研究費基盤研究 A(課題番号:24H00106) 「奴隷制の想像力」:地中海型奴隷制度論の動態的検討	2024～2027	嶽本 (分担者)
科学研究費若手研究(課題番号:23K17134) 日本による親ジェンダー外交の展開:安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析	2023～2027	本山

3) 海外の助成金によるプロジェクト

ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku の UTFORSK プロジェクト(戸谷)2021 年 8 月～2025 年 7 月

【資料】③ 協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley) ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
ジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	49 頁
カン・シケツ (Chih-chieh Chien) 台湾伴侶權益推進連盟・台	(セ) 台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり	29 頁
ツァイ・イーピン (Yiping Cai) カリフォルニア大学アーバイン校・米	(セ) アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー	35 頁
ウェンディ・ハーコート (Wendy Harcourt) エラスムス・ロッテルダム社会科学大学院大学・蘭	(セ) 国際社会と中国	37 頁
ウエンディ・ハーコート (Wendy Harcourt) エラスムス・ロッテルダム社会科学大学院大学・蘭	(シ) フェミニズムとコモニング	23 頁
キョ・シュウブン (Victoria Hsu) 台湾伴侶權益推進連盟・台	(セ) 台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり	29 頁
グロ・コースニス・クリステンセン (Guro Korsenes Kristensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	49 頁
日下部京子 (Kyoko Kusakabe) アジア工科大学院大学・タイ	(連) AIT ワークショップ	47 頁
プリシラ・リングローズ (Priscilla Ringrose) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	49 頁
佐藤千寿 (Chizu Sato) ワーゲニンゲン大学・蘭	(シ) フェミニズムとコモニング	23 頁
ソウ・ショウホウ (Shaopeng Song) 中国人民大学・中	(シ) 中国における農村・ジェンダー・モダニティ	26 頁
シリ・エイスレボ・ソレンセン (Siri Øyslebø Sørensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(セ) 国際社会と中国	37 頁
シリ・エイスレボ・ソレンセン (Siri Øyslebø Sørensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	49 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

氏名・所属	協力事業*	参照
【国内】		
秋林こずえ (Kozue Akibayashi) 同志社大学	(セ) アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー	35 頁
岩島史 (Fumi Iwashima) 京都大学	(シ) フェミニズムとコモニング	23 頁
小田原琳 (Rin Odawara) 東京外国語大学	(シ) フェミニズムとコモニング	23 頁
河野禎之 (Yoshiyuki Kawano) 筑波大学	(セ) 台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり	29 頁
金井郁 (Kaoru Kanai) 埼玉大学	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
桐山節子 (Setsuko Kiriyama) 同志社大学	(セ) 沖縄における共有地とジェンダー	39 頁
北原恵 (Megumi Kitahara) 大阪大学	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
リンダ・グローブ (Linda Grov) 上智大学	(シ) 中国における農村・ジェンダー・モダニティ	26 頁
ミーシャ・ケード (Misha Cade) 東京大学総合文化研究科博士 後期課程	(セ) 一緒に学ぼう！性的同意と第三者介入ワークショップ	31 頁
治部れんげ (Renge Jibu) 東京工業大学	(セ) メディアにおける『炎上』の構造と発信者としての私たち	33 頁
田原史起 (Fumiki Tahara) 東京大学	(シ) 中国における農村・ジェンダー・モダニティ	26 頁
戸邊秀明 (Hideaki Tobe) 東京経済大学	(セ) 沖縄における共有地とジェンダー	39 頁
長島佐恵子 (Saeko Nagashima) 中央大学	(セ) 台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり	29 頁
三浦まり (Mari Miura) 上智大学	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
姚毅 (Yi Yao) 大阪公立大学	(シ) 中国における農村・ジェンダー・モダニティ	26 頁
李亜姣 (Yajiao Li) 宇都宮大学	(シ) 中国における農村・ジェンダー・モダニティ	26 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム

氏名・所属	協力事業*	参照
【学内】		
石井クンツ昌子 (Masako Ishii-Kuntz) 理事・副学長・グローバル女性リ ーダー育成研究機構	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	49 頁
小林誠 (Makoto Kobayashi) 基幹研究院人間科学系	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	49 頁
天野知香 (Chika Amano) 基幹研究院人文科学系	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
森義仁 (Yoshihito Mori) 基幹研究院自然・応用科学系	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
倉光ミナ子 (Minako Kuramitsu) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
脇田彩 (Aya Wakita) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁
宝月理恵 (Rie Hogetsu) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	58 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

【資料】④ シンポジウム・セミナー一覧

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催国際シンポジウム		
7/31	IGS 国際シンポジウム フェミニズムとコモニング:ポスト資本主義におけるフェミニズムの位相 【報告】佐藤千寿(ワグeningen大学講師) ウエンディ・ハーコート(エラスムス・ロッテルダム社会科学大学院大学教授) 【コメンテーター】小田原琳(東京外国語大学教授) 岩島史(京都大学講師) 大橋史恵(IGS 准教授) 【司会】本山央子(IGS 特任リサーチフェロー) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日英(同時通訳有) 【参加者数】204 名(対面参加 23 名、オンライン参加 181 名)	23 頁
IGS 共催国際シンポジウム		
12/7	IGS 国際シンポジウム 中国における農村・ジェンダー・モダニティ 【基調報告】宋少鵬(中国人民大学教授) 【報告】姚毅(大阪公立大学客員研究員) 田原史起(東京大学教授) 李亜姣(宇都宮大学助教) 【ディスカッサント】リンダ・グローブ(上智大学名誉教授) 【司会】大橋史恵(IGS 准教授) 【閉会挨拶】戸谷陽子(IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【共催】中国女性史研究会 【言語】日本語、中国語普通話(逐次通訳有) 【参加者数】85 名	26 頁
IGS 主催 IGS セミナー		
4/17	IGS セミナー 台湾と日本における、トランス・インクルーシブなキャンパスづくり 【講師】許秀雯(台湾伴侶權益推進連盟弁護士) 簡至潔(台湾伴侶權益推進連盟事務局長) 【進行・コメント】長島佐恵子(中央大学教授) 【コメント】石丸径一郎(お茶の水女子大学教授) 河野禎之(筑波大学助教) 【総司会】戸谷陽子(IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 【通訳】八木はるな(中央大学准教授) 魏韻典(東京大学博士後期課程) 【主催】ジェンダー研究所 【共催】中央大学ダイバーシティセンター 【言語】日本語、中国語(逐次通訳有) 【参加者数】44 名	29 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
4/24	IGS セミナー(学内限定) 一緒に学ぼう！性的同意と第三者介入ワークショップ 【講師】Misha Cade(東京大学総合文化研究科博士後期課程) 今村さくら(一般社団法人ちやぶ台返し女子アクション、お茶の水女子大学大学院ジェンダー社会科学専攻卒業生) 【司会】花岡奈央(IGS アカデミック・アシスタント) 【主催】ジェンダー研究所、『リプロダクティブ・ジャスティス』翻訳プロジェクト 【言語】日本語 【参加者数】18 名	31 頁
6/14	IGS セミナー(学内限定) メディアにおける『炎上』の構造と発信者としての私たち 【基調講演】治部れんげ(ジャーナリスト、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授) 【パネリスト】宮川さおり(共同通信津支局長) 河原千春(お茶の水女子大学博士前期課程ジェンダー社会科学専攻／信濃毎日新聞社記者) 【司会】浅野優菜(お茶の水女子大学博士前期課程ジェンダー社会科学専攻) 唐井梓(お茶の水女子大学博士前期課程ジェンダー社会科学専攻) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】34 名	33 頁
12/5	IGS 国際ワークショップ アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー 【報告】蔡一平(カリフォルニア大学アーバイン校博士後期課程／Development Alternatives with Women for a New Era (DAWN)) 本山央子(IGS 特任リサーチフェロー) 【コメント】秋林こずえ(同志社大学教授) 【司会】嶽本新奈(IGS 特任講師) 【主催】ジェンダー研究所 【共催】科研費若手「日本による親ジェンダー外交の展開：安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析」(23K17134) 【言語】日英(逐次通訳有) 【参加者数】38 名	35 頁
12/6	IGS セミナー 国際社会と中国：フェミニストの好奇心から振り返る 【報告】蔡一平(カリフォルニア大学アーバイン校博士後期課程／Development Alternatives with Women for a New Era (DAWN)) 宋少鵬(中国人民大学教授) 【司会・コメント】大橋史恵(IGS 准教授) 本山央子(IGS 特任リサーチフェロー) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日英(逐次通訳有) 【参加者数】23 名	37 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
2/10	IGS セミナー 沖縄における共有地とジェンダー: 家父長制と軍事化の相関を問う 【報告】桐山節子(同志社大学嘱託研究員) 【コメント】戸邊秀明(東京経済大学教授) 大橋史恵(IGS 准教授) 【司会】嶽本新奈(IGS 特任講師) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】73 名	39 頁
IGS 主催 IGS 研究会		
3/7	IGS 研究協力員研究報告会 【報告】板井広明(専修大学教授/IGS 研究協力員) 左高慎也(独立行政法人日本学術振興会特別研究員(PD)/IGS 研究協力員) 仙波由加里(一般社団法人ドナーリンク・ジャパン代表理事/IGS 研究協力員) 英美由紀(藤女子大学教授/IGS 研究協力員) 平野恵子(横浜国立大学准教授/IGS 研究協力員) 【挨拶・コメント】戸谷陽子(IGS 所長/お茶の水女子大学教授) 【司会】嶽本新奈(IGS 特任講師) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】18 名	41 頁
IGS 後援イベント		
8/3	日本フェミニスト経済学会 2024 年度大会 共通論題 フェミニスト経済学とエコロジー: 人間と環境のウェルビーイングを模索する 【座長】岩島史(京都大学) 大橋史恵(お茶の水女子大学) 【報告】佐藤千寿(ワーゲニンゲン大学) 湯澤規子(法政大学) 嶽本新奈(お茶の水女子大学) 福永真弓(東京大学) 【コメント】小林舞(京都大学) 伊田久美子(大阪公立大学) 【主催】日本フェミニスト経済学会 【後援】ジェンダー研究所	43 頁
IGS 共催研究会		
9/19	国際ジェンダー学会 国際移動とジェンダー (IMAGE) 分科会 第 3 回研究会 『在日フィリピン人社会』をジェンダーの視点から読む 【報告】高畑幸(静岡県立大学) 【コメント】大野恵理(獨協大学) 伊藤るり(一橋大学名誉教授) 【司会】小ヶ谷千穂(フェリス学院大学) 【主催】国際ジェンダー学会 国際移動とジェンダー (IMAGE) 分科会 【共催】ジェンダー研究所 【後援】科研費基盤研究 (B)「日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究」(課題番号:23H00888)	44 頁

【資料】⑤2024 年度新規収蔵図書・資料

・2024 年度、寄贈により以下の書籍が新規収蔵された。〔寄贈者名『書名』(著者名)〕(敬称略)

Louise Rouse『Archival glitch : art + feminism seminar series』(Deanna MacDonald and Louise Rouse[編])／小林牧人『LGBTQ+性の多様性はなぜ生まれる? : 生物学的・医学的アプローチ』(小林牧人)／ドメス出版『生きにくさを生きる : 人権・戦争・原発』(山村淑子)／吉川弘文館『江戸のキャリアウーマン : 奥女中の仕事・出世・老後』(柳谷慶子)／白澤社『結婚の自由 : 「最小結婚」から考える』(植村恒一郎 [ほか著])／北樹出版『現代文化への社会学 : 90 年代と「いま」を比較する』(高野光平／加島卓／飯田豊[編著] ; 林田新 [ほか著])／昭和女子大学女性文化研究所『コロナ禍の労働・生活とジェンダー』(昭和女子大学女性文化研究所[編])／洲崎圭子『ジェンダー研究が拓く知の地平』(東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会[編])／日本学術協力財団『女性の政治参画をどう進めるか』(日本学術協力財団編集 ; 三浦まり [ほか執筆])／昭和女子大学女性文化研究所『女性リーダー育成への挑戦 : 昭和女子大学創立 100 周年記念出版』(昭和女子大学女性文化研究所[編])／千種キムラ・スティーブン『漱石と姦通罪 : 前期三部作の誕生と家父長制批判』(千種キムラ・スティーブン)／品川洋子『つなぐ : 女性の中学校長から : 北九州市で坂道の先へ』(品川洋子)／久保桂子『共働きと男性の家事労働』(久保桂子)／福村出版『なぜ愛に傷つくのか : 社会学からのアプローチ』(エヴァ・イルーズ [著] ; 久保田裕之[訳])／グラフィック社『日本の女性・ジェンダーのいちばんわかりやすい歴史の教科書』(飯田育浩)／千種キムラ・スティーブン『「パンデミック」とフェミニズム : 新・フェミニズム批評の会創立 30 周年記念論集』(新・フェミニズム批評の会[編])／北樹出版『ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ』(稲垣健志[編著])

・2024 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の書籍が新規収蔵された。〔『書名』(著者名)〕

『ACE : アセクシュアルから見たセックスと社会のこと』(アンジェラ・チェン[著] ; 羽生有希[訳])／『Contours of feminist political ecology』(Wendy Harcourt [and four others edited].)／『Gender history in China』(Masako Kohama and Linda Grove[edited])／『Gender theory in troubled times』(Kathleen Lennon & Rachel Alsop)／『家族計画 = The family planning(復刻版『家族計画』;2)』(日本家族計画普及会)／『家族計画 = The family planning(復刻版『家族計画』;3)』(日本家族計画普及会)／『家族計画 = The family planning(復刻版『家族計画』;4)』(日本家族計画普及会)／『家族計画 = The family planning(復刻版『家族計画』;5)』(日本家族計画普及会)／『家族計画 = The family planning(復刻版『家族計画』;6)』(日本家族計画普及会)／『家族計画 = The family planning(復刻版『家族計画』;1)』(日本家族計画普及会)／『教室から編みだすフェミニズム : フェミニスト・ペダゴジーの挑戦』(虎岩朋加)／『クリエイティブであれ : 新しい文化産業とジェンダー』(アンジェラ・マクロビー[著] ; 中條千晴／竹崎一真／中村香住[訳])／『グローバリゼーションと変わりゆく社会』(千田有紀／菊地英明[編著])／『ケアする惑星』(小川公代)／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第1巻)』(高木澄子 [ほか編])／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第2巻)』(高木澄子 [ほか編])／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第3巻)』(高木澄子 [ほか編])／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第4巻)』(高木澄子 [ほか編])／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第5巻)』(高木澄子 [ほか編])／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第6巻)』(高木澄子 [ほか編])／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第7巻)』(高木澄子 [ほか編])／『行動する女たちの会資料集成(編集復刻版第8巻)』(高木澄子 [ほか編])／『持続するフェミニズムのために : グローバリゼーションと「第二の近代」を生き抜く理論へ = For persistent feminism : survive globalization and the "second modernity"』(江原由美子[著])／『ジェンダーと政治理論 : インターセクショナルなフェミニズムの地平』(メアリー・ホークスワース[著] ; 新井美佐子 [ほか訳])／

『ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報 = Journal of gender studies』(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター [編])／『ジェンダー事典』(ジェンダー事典編集委員会[編])／『女性の暮らしと生活意識データ集<2025>』(食品流通情報センター [編])／『女性画家たちと戦争』(吉良智子)／『セクシュアリティの人口学』(小島宏／和田光平[編著])／『セックスする権利』(アミア・スリニヴァサン[著]；山田文[訳])／『占領下の女性たち：日本と満洲の性暴力・性売買・親密な交際』(平井和子)／『戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会：売買春・恋愛の近現代史』(寺澤優)／『多様性との対話：ダイバーシティ推進が見えなくするもの』(岩渕功一 [編著])／『男女共同参画社会データ集 = Statistical data of gender-equal society<2024>』(三冬社編集制作部)／『「地方」と性的マイノリティ：東北 6 県のインタビューから』(杉浦郁子／前川直哉)／『中国と日本における農村ジェンダー研究：1950・60 年代の農村社会の変化と女性』(堀口正 [ほか編著])／『中絶と避妊の政治学：戦後日本のリプロダクション政策』(ティアナ・ノーグレン[著]；塚原久美／日比野由利／猪瀬優理 [訳])／『なぜ男女の賃金に格差があるのか：女性の生き方の経済学』(クラウドディア・ゴールドイン[著]；鹿田昌美[訳])／『日中戦時下の中国語雑誌『女声』：フェミニスト田村俊子を中心に』(山崎眞紀子 [ほか著訳])／『認識的不正義：権力は知ることの倫理にどのようにかわるのか』(ミランダ・フリッカー[著]；飯塚理恵[訳])／『働く母親と階層化：仕事・家庭教育・食事をめぐるジレンマ』(額賀美紗子／藤田結子)／『ハロー・ガールズ：アメリカ初的女性兵士となった電話交換手たち』(エリザベス・コップス[著]；綿谷志穂[訳])／『被害と加害のフェミニズム：#MeToo 以降を展望する』(クオンキム・ヒョンヨン[編著])／『姫とホモソーシャル：半信半疑のフェミニズム映画批評』(鷺谷花)／『フェミニスト経済学：経済社会をジェンダーでとらえる = Introduction to feminist economics : the Japanese feminist perspective』(長田華子／金井郁／古沢希代子[編著]；李素軒 [ほか著])／『フェミニズムとレジリエンスの政治：ジェンダー、メディア、そして福祉の終焉』(アンジェラ・マクロビー[著]；田中東子／河野真太郎[訳])／『プロレタリア文学とジェンダー：階級・ナラティブ・インターセクショナルリティ』(飯田祐子／中谷いずみ／笹尾佳代[編著])／『分析フェミニズム基本論文集』(サリー・ハスランガー[ほか著]；木下頌子[ほか編訳])／『ホワイト・フェミニズムを解体する：インターセクショナル・フェミニズムによる対抗史』(カイラ・シュラー[著]；川副智子[訳])／『マスキュニティーズ：男性性の社会科学』(レイウィン・コンネル[著]；伊藤公雄[訳])／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 1 巻)』(松原洋子[編])／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 巻)』(松原洋子[編])／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 1 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 2 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 3 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 4 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 5 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 6 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 7 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 2 期(市民運動編)第 8 巻)』／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 3 巻)』(松原洋子[編])／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 4 巻)』(松原洋子[編])／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 5 巻)』(松原洋子[編])／『優生保護法関係資料集成：編集復刻版(第 6 巻)』(松原洋子[編])／『ロシア文学とセクシュアリティ：二十世紀初頭の女性向け大衆小説を読む』(安野直)

【資料】⑥ 史料電子化プロジェクト：電子化イベント一覧

女性文化資料館(1975-1985)/女性文化研究センター(1986-1995)イベント一覧				
年度	活動区分	開催日	イベントタイトル	登壇者
1977	講演会	1977/9/22	湯浅年子先生講演会	湯浅年子
(S52)	シンポジウム	1978/1/14	シンポジウム	
	研究会	1978/2/8	山川菊栄と女性解放思想(木下 研究会)	
	研究会	1978/3/6	社会学における家族	
	研究会	1978/3/22	山川菊栄研究	
1978	研究会	1978/6/6	女性史研究会 欧米の女性論	
(S53)	研究会	1978/7/27	女性史研究会 欧米の女性論	
1979	研究会	1979/5/24	女性の教育と女性問題	
(S54)	研究会	1979/10/4	アメリカ婦人労働の法的諸問題	
	シンポジウム	1980/1/26	総合科目「婦人問題」に関するシンポジウム	
	研究会	1980/2/12	中山みきの思想と歩み—陽気づくめの世界をめざして 50 年—	吉原敬子
		1980/3/1	杉田和子、小島栄子、岩本のり子 於:中村屋	
1980	研究会	1980/4/1	平安時代の相統制と女子相統権—『平安遺文』文書を中心として—	服藤早苗
(S55)	研究会	1980/4/23	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅰ〕	村松弘子ほか
	研究会	1980/5/29	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅱ〕	田中和子ほか
	研究会	1980/7/3	インドにおける女性の政治的役割	Chandra Mudaliar
	研究会	1980/10/18	〔コペンハーゲン婦人会議及び婦人差別撤廃条約について〕【婦人問題懇話会 講演会】	船橋邦子ほか
	研究会	1980/10/20	性役割とセクシズム	小林啓子
	研究会	1980/11/5	Feminist Literary Criticism からみた『砂の女』	Chigusa Kimura-Steven
	研究会	1980/12/25	目黒依子『女役割』について	田中和子ほか
	研究会	1981/2/12	アメリカの女性史	金子幸子ほか
	研究会	1981/3/27	フランス社会史の動向と女性史	小島智恵
1981	研究会	1981/5/27	人類学者のみた個人的アメリカ女性史	Frederica de Laguna
(S56)	研究会	1981/5/29	Role's of Women's College	Frederica de Laguna
	研究会	1981/6/12	『性の署名』について(1)	内藤和美ほか
	研究会	1981/7/4	『性の署名』について(2)	平川和子
	研究会	1981/7/12	高群逸枝の婚姻・家族形態研究の意義について	関口裕子
	研究会	1981/9/9	カナダの女性学について	Patricia Morley ほか
	研究会	1981/10/16	家族・親族理論研究動向	田中真砂子
	研究会	1981/11/25	兼業農家女性の就労形態の変容—長野県諏訪地方の場合—	久保桂子
	研究会	1981/12/15	オーストラリアと日本の婦人運動／ニュージーランドの女性の地位について	Romanovsky Ulrike ほか
	研究会	1982/1/27	千葉県における廃娼運動—国防婦人会との関連において—	船橋邦子
	研究会	1982/3/24	近現代日本の社会教育と婦人団体	木下 ユキエ
1982	研究会	1982/4/23	女子大学の存在意義を考える—アメリカ・フランス・インド等の各国を見て—	広中和歌子

(S57)	研究会	1982/5/22	女性学研究会 井上輝子、目黒依子	
	研究会	1982/6/4	近世における女性と家族	林玲子ほか
	研究会	1982/10/22	平安時代の養子制度について—日本家族の特質をテーマに—	William McCullough ほか
	研究会	1982/11/24	バングラディッシュの女性について	武藤敦子
	研究会	1982/12/13	Consort, mother, beloved, "Vamp"; the symbolic depiction of womanhood in Indian calendar art	Patricia Uberoi ほか
	研究会	1983/1/24	出産の社会史—家族の近代化に関連して—	落合恵美子
	研究会	1983/2/15	韓国の女性について	鄭金子ほか
	研究会	1983/3/22	『巫女の文化』について—古代女性史の見直しのために—	倉塚肇子ほか
1983	研究会	1983/5/30	ガブリエラ・ミストラルと『女性読本』について	田村さと子
(S58)	研究会	1983/6/30	Japanese-German Marriage in Japan: a tentative approach	Irene Hardach-Pinke
	研究会	1983/7/29	『性の深層』をめぐって—現代西ドイツの女性運動との関連で—	大沢三枝子
	研究会	1983/9/26	『妻と夫の社会史』について	山本郁子ほか
	研究会	1983/11/1	女性の側からジェンダーを考える	若井文恵ほか
	研究会	1983/11/21	Intellectual Differences between Woman and Man "Inherited or Acquired?"	Virginia Mann ほか
	研究会	1983/12/15	機械女工たちの近代	古庄正
	研究会	1984/2/22	『婦女新聞』の出発	石崎昇子ほか
	研究会	1983/3/13	フィリップ・アリエス研究—子ども・教育・女性—	波多野完治ほか
1984	研究会	1984/4/24	日本の離婚調停に関する研究	Taimie Bryant
(S59)	研究会	1984/5/15	『更級日記』作者の宗教的コンプレックス	高木きよ子
	講演会	1984/5/31	お茶の水女子大学百年史刊行記念講演会	林太郎ほか
	研究会	1984/6/20	キリスト教文化と女性	杉田弘子
	研究会	1984/7/6	The Function of Libraries, Women's Centers, and "Women's Studies" in doing Feminist Research	Helen Wheeler ほか
	研究会	1984/10/23	『私生子』概念の発生と消長—明治期を中心とする法制・歴史と実際の扱い—	田中弘子
	研究会	1984/11/20	Woman and Nature	Susan Griffin ほか
	研究会	1984/12/11	中国女性史研究—小野和子『中国女性史』を読んで—	加藤直子
	研究会	1985/2/25	樋口一葉の文学—『十三夜』と『人形の家』の比較を中心に—	フランシスカ・フンチカ
	研究会	1985/3/14	近世関東農村における女性労働者の存在形態—年季・日雇奉公人の分析から—	青木道子
	研究会	1985/4/26	ユートピアと性	倉塚平
(S60)	研究会	1985/5/29	西欧近代の結婚観—キルケゴールをめぐって—	野村明代
	研究会	1985/6/12	清代において模範とされている女性について	Susan Mann
	研究会	1985/6/13	食事が子供の身体と心に与えるもの	
	研究会	1985/7/4	韓国女性の政治的、社会的地位	白京男
		1985/10/5	第三世界の女性たちと私たち—ナイロビ報告(日本婦人問題懇話会)	
	研究会	1985/10/28	『源氏物語』にみる婚姻と居住形態と相統—光源氏と紫の上と明石君をめぐる—視角—	木下ユキエ
	研究会	1985/11/15	主婦とテレビ	香取淳子
	シンポジウム	1985/11/27	産むことを考える	加藤シヅエほか
	研究会	1985/12/18	イタリア女性解放思想の歴史と今日的な段階—19 世紀末から現在に至る主要な事項—	Argnani Fausta

	研究会	1986/1/16	スイスにおける女性史研究—論文集『女性』と『イティネラ』にみる女性史家の研究動向—	佐藤るみ子
	研究会	1986/3/3	「円地文子論—“自然な女”の周辺—」	宮内淳子
1986 (S61)	研究会	1986/4/25	フランス現代女性思想の流れ—ボーヴォワール・クリスティヴァ・イリガライ	棚沢直子
	研究会	1986/6/24	日本文化における『悪女』	Valerie・L・Durham
	研究会	1986/10/3	航空史における女性の役割—ドイツ女性スポーツ史の視角から	Gertrud Pfister
	研究会	1986/11/20	韓国の家族について	徐炳淑
	研究会	1986/12/8	バングラディシュの女性—女性政策の視点から—	Jowshan Ara Rahman (ほか)
	研究会	1987/1/14	中東世界の女性—イスラームの原理と実像	黒田美代子
	研究会	1987/3/3	マレーシアの女性	Goh Beng Lan
	研究会	1987/4/23	公民の妻/青年団における女子活動の設立	渡辺洋子(ほか)
1987 (S62)	研究会	1987/5/15	Impact of Economics & Technological Change on Women	Tamara・Hareven
	研究会	1987/6/24	円地文子の描いた女性像	アイリーン・マイカルス・アダチ
	研究会	1987/7/14	家計構造の長期的変容	田窪純子
	研究会	1987/8/25	舞踊と語り……祖母の語りとその姿	江川まゆみ
	研究会	1987/10/26	ラテン・アメリカの女性像	三田千代子
	研究会	1987/11/25	和泉式部と仏教	小野美智子
	研究会	1987/12/16	タイ社会における女性の役割	小野沢・ニッタヤー
	研究会	1988/2/10	日本における転勤の問題とデュアル・キャリア・ファミリーについて	青木由紀
	研究会	1988/3/10	新しい家庭科をめざして	西谷洋子
	研究会	1988/3/10	家庭科における消費者教育	小関禮子
	研究会	1988/4/11	Income Generation of Women in Rural Bangladesh	Kohinoor Begum
1988 (S63)	研究会	1988/5/26	South Asian Women: Challenges & Prospects	Urmila Phadnis
	研究会	1988/6/22	Some Implications of Women's Status in China	Beverly Y. B. Hong
	研究会	1988/7/8	性役割意識に関連する韓国人の価値観	金炳端
	研究会	1988/9/7	こどもの虐待と放置—小児科の全国調査から—	内藤和美
	研究会	1988/11/25	フェミニスト研究の軌跡—Stanley & Wise の『フェミニズム社会科学に向か って』を提起するもの—	矢野和江
	研究会	1989/2/21	アジアにおける女性と仕事	Noeleen Heyzer
	研究会	1989/3/7	日本のフェミニストの意識と alternative な生活スタイル	ゴー・ベン＝ラン
	研究会	1989/4/5	男女平等教育の実践に向けて	Peggy McIntosh
1989 (H1)	研究会	1989/4/14	Education of Scientist who Happen to Be Women	Emily L. Wic
	研究会	1989/6/1	鎌倉期の乳父について—その存在形態と乳母との関連	秋山貴代子
	研究会	1989/6/12	Modernisation en Iran et Le Changement Socio-cultural de Role de la Femme	Nasrin F. Hakami
	研究会	1989/7/17	Problems of Homeless Children in India	Rajani Paranjipe
	合評会	1989/9/11	原ひろ子著『ヘアー・インディアンとその世界』について	田中真砂子
	研究会	1989/10/4	スペイン内戦下の女性たち	秋山充子
	研究会	1989/11/17	Women and / in Media	Ann Simonton
	シンポジウム	1989/12/13	お茶の水女子大学留学生懇談会	

	シンポジウム	1989/11/29 12/20,199 0/3/19	特定研究「女性のライフコースの多様化と女子大学の役割」	Peggy McIntosh
1990 (H2)	シンポジウム	1990/4/23, 24	『母性』をめぐる日独シンポジウム	館かおるほか
	研究会	1990/5/18	Systematic Planning for Women's in Development and Activities	Barbara Knudson
	研究会	1990/6/14	マレー農村社会における性役割—東南アジアの伝統とイスラム規範のはざまにて	花見慎子
	研究会	1990/6/26	Women's Mothering and Working Roles in Japan and the United States	Brenda Bankart
	研究会	1990/9/25	中央ユーラシア遊牧民の歴史にみる女性像	宮脇淳子
	研究会	1990/10/23	福沢諭吉の女性論	杉原名穂子
	研究会	1990/11/22	日本近代女性の自伝を読む	Ronald P. Loftus
	研究会	1990/12/5	精神的母性	Elisabeth Gössmann
	研究会	1991/3/13	女性の自然科学研究者の進路決定要因の研究について	ビヴァリー・ゲッツイ
1991 (H3)	研究会	1991/5/29	大正時代の『令女会』の歌曲—女学生の歌唱と女学生向け創作歌曲の一考察	坂本麻実子
	研究会	1991/6/10	An Anthropological Study of Gender Science in Japan & U.S.	Sharon Traweck
	研究会	1991/6/18	To a Safer Place	Dane Raphael
	研究会	1991/10/4	Woman's Movement in Comparative Perspective	Ilse Lenz
	研究会	1991/10/9	Women of the Tlingit Society in Historical Perspective	Frederica de Laguna
	研究会	1991/10/31	Confusionism and Modern Chinese Women's Family Life	黄育馥
	研究会	1991/11/15	フェミニズムの方法としてのメモリーワーク	Frigga Haug ほか
	研究会	1991/11/19	クリスティヴァ『女の時間』を読む	棚沢直子
	研究会	1991/12/19	The Situation of the Swedish Women Today	Malin Ronnblom
	研究会	1992/1/30	自治体における女性学	栗国千恵子
	研究会	1992/2/12	中国の少数民族における女性	劉耀荃
	研究会	1992/2/20	アメリカ女性学の現段階: 女性学の理論家と県空者養成システム	三宅義子
	研究会	1992/3/13	『女性と労働』日独シンポジウム	
1992 (H4)	研究会	1992/4/15	Women's Studies in Canada	Naomi Black
	研究会	1992/4/20	Sexuality and Reproduction in Women's Utopian Dystopian Literature	Blaine Martin
	研究会	1992/6/19	湯浅年子博士資料的研究の歩み	松田久子
	研究会	1992/6/22	ジェーン・アダムスの思想と行動	米澤正雄
	研究会	1992/7/20	女性と開発をめぐる諸問題	村松安子
	研究会	1992/10/26	沖縄における女性の就労と性役割分業観	国吉和子
	講座	1992/11/21 28,12/5	次世代育成能力を考える	原ひろ子ほか
1993 (H5)	研究会	1993/1/28	南インド・ナガラッタールにおける親族・婚姻及び女性	西村祐子
	研究会	1993/5/18	中国における職業分化に伴う女性の価値観と行為方式の変化について	沙蓮香
	研究会	1993/6/24	女性と表彰—「模範嫁」表彰の聞き取り調査をめぐって—	熊澤知子
	研究会	1993/7/16	ベルリンの老人ホームとケア付き集合住宅	大澤真理
	研究会	1993/9/22	女性の自己表現と文学—野上彌生子におけるフェミニズムと形式—	藤田和美
	研究会	1993/10/15	—政治学者のみたジェンダー研究—オリエンタリズムとの関連—	石田雄

	特定研究懇談会	1993/11/13	Women in Higher Education—A case of the University of California USA—	Dr.Maresi Nerad
	研究会	1993/11/14	変容する男性社会—労働、ジェンダーの日独比較	高島道枝ほか
	研究会	1993/12/3	Gender, Justice and Therapy: Can One Be a Feminist and Practise Family Therapy?	Jan McDowell
	シンポジウム	1993/12/14,15	女性とメディア	
	シンポジウム	1994/1/20	特定研究「ライフコースの多様化の時代における大学教育と女性」	
1994 (H6)	研究会シンポ	1994/4/7	エコロジーとフェミニズムを考える	Maria Mies ほか
	研究会	1994/6/1	オーストラリア女性史研究—女性史からフェミニスト史へ	Vera Mackie
	研究会	1994/7/27	いけ花と日本女性: 知の発達・地から・ジェンダー	飛田尚弥
	研究会	1994/8/29	Feminist Studies and Qualitative Empirical Methods: the Case of Sex Tourism and Traffic in Women	Ilse Lenz
	研究会	1994/9/27	Internationalization and Gender Relations: Theoretical Approaches	Ilse Lenz
	研究会	1994/10/31	家族法改正をめぐる文献とその論点	海妻径子
	シンポジウム	1994/11/2	学内共同教育研究プロジェクト・大学における女性学及び女性学研究センターの役割について	
	研究会	1995/1/27	How to combine Parenthood and Work?—Policies on Gender in Sweden—	Rita Liljestrum
	研究会	1995/2/21	Current Trends in Women's Studies in India: Gender, Development and Empowerment/	Malavika Karlekar ほか
	研究会	1995/3/1	Women, Education, and Development in Bangladesh	Saleha Begum
1995 (H7)	研究会	1995/4/13	日本の女性国會議員—その形成と構造	大海篤子
	研究会	1995/5/12	姉さん女房の社会学	Ursula Richter
	研究会	1995/6/16	女性と政治	Elic Plutzer
	研究会	1995/7/3	遺伝子とジェンダー	Joan Hideko Fujimura
	研究会	1995/9/18	アメリカのフェミニスト法理論の現在	Frances Olsen
	研究会	1995/10/13	社会主義フェミニズムの観点から見る『雁』	玉枝 Prindle
	研究会	1995/11/24	エコロジーとフェミニズム	山本良一
	シンポジウム	1995/12/2	湯浅年子メモリアルカンファレンス—エレーヌ・ランジュヴァン・ジョリオをむかえて	Hélène Langevin-Joliot
	研究会	1995/12/19	The place of women in Egyptian Society	Samia Khedr Saleh
	研究会	1996/2/14	ネパールにおける Management と WID の視点	福土恵理香
	研究会シンポ	1996/3/19	日本の学問研究とジェンダー	館かおる

●2024 年度に電子化したイベント一覧

2000 (H12)	夜間セミナー	2000/11/8	『西洋フェミニズム』はなぜ不適切な名称か？(夜間セミナー8-1)	Tani E. Barlow
	夜間セミナー	2000/11/15	非ナショナル(もしくは地域的)フェミニズムの主体とは何か？(夜間セミナー8-2)	Tani E. Barlow
	夜間セミナー	2000/11/22	女の歴史は、社会的出来事の残滓、流動する言語使用、政治的偶発性、ナショナリスト的で反植民地主義的な開発戦略のなかからいかんにして引き出せるか？(夜間セミナー8-3)	Tani E. Barlow
	夜間セミナー	2000/11/29	植民地的近代という特定の歴史のなかで女の主体性や、市民性、優生学、人種改良、「セクシュアリティ」、人類学などが包含するインターナショナルな問題を、私たちはどう読むべきか？(夜間セミナー8-4)	Tani E. Barlow
	夜間セミナー	2000/12/6	(ポスト)社会主義的近代とは何か？またそれと「中国」フェミニズムとの関係は何か？(夜間セミナー8-5)	Tani E. Barlow

	夜間セミナー	2000/12/13	普遍的な『ポスト西洋的』フェミニズムの歴史の記述はネーションから地域への移行(いわゆるグローバル化)のなかでどのような課題に直面しているのか？(夜間セミナー8-6)	Tani E. Barlow
	ゼミ	2001/1/29	タニ先生意見交換会	Tani E. Barlow
	シンポジウム	2001/3/22	アジアにおけるグローバル化とジェンダー	Tani E. Barlow ほか
2001 (H13)	夜間セミナー	2001/5/16	移動研究とジェンダー研究をつなぐー両者の接点を求めて(夜間セミナー9-1)	Mirjana Morokvasic-Muller
	夜間セミナー	2001/5/23	ゲスト・ワーカーから超国境的移動者へー1989 年を分岐点として(夜間セミナー9-2)	Mirjana Morokvasic-Muller
	夜間セミナー	2001/6/6	ヨーロッパ経済への『他者化された』女性の編入ー衣服産業、家事代行業、性産業(夜間セミナー9-3)	Mirjana Morokvasic-Muller
	夜間セミナー	2001/6/13	女性移動者の抵抗戦略ーサン・パピエ、自営業、通勤としての移動(夜間セミナー9-4)	Mirjana Morokvasic-Muller
	夜間セミナー	2001/6/20	強制移動と移り変わるアイデンティティーユーゴスラヴィアのバイナショナル・カップルをめぐる(夜間セミナー9-5)	Mirjana Morokvasic-Muller
	講演会	2001/9/22	ポスト・コミュニズム時代のヨーロッパにおける人の移動とジェンダー	Mirjana Morokvasic-Muller
	夜間セミナー	2001/11/7	ジェンダーとグローバル化を考える(夜間セミナー10-1)	Vera Mackie
	夜間セミナー	2001/11/14	グローバル化と身体(夜間セミナー10-2)	Vera Mackie
	夜間セミナー	2001/11/28	グローバル化と表象(夜間セミナー10-3)	Vera Mackie
	夜間セミナー	2001/12/5	グローバル化とセクシュアル・アイデンティティ(夜間セミナー10-4)	Vera Mackie
	夜間セミナー	2001/12/11	グローバル化とトランスナショナル・フェミニズム(夜間セミナー10-5)	Vera Mackie
	シンポジウム	2002/3/2	トランスナショナル・フェミニズムの可能性	Vera Mackie
2002 (H14)	シンポジウム	2002/5/25	国際協力における大学の役割ージェンダー課題を中心にー	Carla Risseuw ほか
	夜間セミナー	2002/7/3	ケア、社会政策、ジェンダーー概念的検討(夜間セミナー11-1)	Carla Risseuw
	夜間セミナー	2002/7/10	地球的課題としての高齢化ー南北のジェンダー政策課題(夜間セミナー11-2)	Carla Risseuw
	夜間セミナー	2002/7/17	福祉国家の撤退ーオランダの事例(夜間セミナー11-3)	Carla Risseuw
	夜間セミナー	2002/7/24	ケアと文化的相違ー東アフリカの伝統治療とケア(夜間セミナー11-4)	Carla Risseuw
	夜間セミナー	2002/7/31	社会調査と倫理ーフェミニスト的ケア観を中心に(夜間セミナー11-5)	Carla Risseuw
	シンポジウム	2002/11/21	グローバル化とオランダの福祉国家ーケアにおける私的領域・公的領域の問題をめぐるー	Carla Risseuw
2003 (H15)	講演会	2003/9/22	メキシコの女性とフォークアート	Eli Bartra
	講演会	2003/10/6	トリン・T・ミンハ新作映画上映会&講演会	Trinh T. Minh-ha
	シンポジウム	2003/11/15	ジェンダー研究の理論と表象分析のいまー国家・資本・表象の共謀と攻防	天野知香ほか
	講演会	2003/11/21	セクシュアリティ研究と文学研究	J. Keith Vincent
	研究会	2004/1/20	「ポスト国家/ポスト家族」言説のフロントー上野・西川・春日・竹村論文をめぐる応答ー	上野千鶴子ほか
	研究会	2004/3/17	マッチョな男と金欠女はどこへ行く？ーポストコロニアルな文化地勢(「英語圏ジェンダー理論/表象研究会」2003 年度年次大会)	越智博美ほか

	講演会	2004/3/17	父の娘と母の娘と 田嶋陽子、〈学問／感性／政治〉を斬る(「英語圏ジェンダー理論／表象研究会」2003 年度年次大会)	田嶋陽子
2004 (H16)	研究会	2004/10/2	Anne McIntock, Imperial Leather: Race, Gender, and Sexuality in the Colonial Cotest (「英語圏ジェンダー理論／表象」研究会 第 2 回文献討論会)	上野和子ほか
	講演会	2004/10/11	No Turning Back: The History of Feminism and the Future of Women	Estelle B. Freedman
	セミナー	2004/11/18	グローバル化時代の女性のセクシュアリティー女性のセクシュアリティの脱領域化、再領域化、そして位階化ー	金恩實
	シンポジウム	2004/12/11	いかにして権力はパフォーマンスするのかー暴力の再現前とジェンダー配備ー(第1回 F-GENS シンポジウム「グローバル化、暴力、ジェンダー」分科会 A)	Anne Cubilie ほか
	研究会	2005/2/19	セクシュアリティの地平ーいま見る・読む・感じる表象批評の冒険(「英語圏ジェンダー理論／表象研究会」2004 年度年次大会)	小谷真理ほか
2005 (H17)	研究会	2005/10/8	Elizabeth Grosz, Volatile Bodies: Toward a Corporeal Feminism (「英語圏ジェンダー理論／表象研究会」第 5 回文献討論会)	鵜殿えりかほか
	講演会	2006/1/14	Undoing Gender	Judith P. Butler
2006 (H18)	研究会	2006/7/9	Donna Haraway, Simians, Cyborgs, and Women を読む(「英語圏ジェンダー理論／表象研究会」第 7 回文献討論会)	上野直子ほか
	研究会	2007/3/10	Laura Mulvey, Visual and Othder Pleasures および Death 24× a Second 第5章を読む(「英語圏ジェンダー理論／表象研究会」第 9 回文献討論会)	斉藤綾子ほか
2007 (H19)	研究会	2007/6/23	Nancy F. Cott, Public Vows: A History of Marriage and the Nation を読む(「英語圏ジェンダー理論／表象研究会」第 10 回文献討論会)	高橋裕子ほか
2008 (H20)	講演会	2008/5/31	女子大学とフェミニズム/ポストフェミニズム	海老根静江

【資料】⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第 3 条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第 4 条 研究所は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 研究員
- (4) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる者を加えることができる。

- (1) 副研究所長
- (2) 特別招聘教授
- (3) 特任職員
- (4) 客員研究員
- (5) 研究協力員

(研究所長)

第 5 条 研究所長は、男女共同参画を担当する副学長並びに基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員(以下「系会議構成員」という。)である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第 6 条 副研究所長は、系会議構成員のうちから、研究所長が指名する。

2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

3 副研究所長の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第7条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第8条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第9条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第10条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 副研究所長

(3) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(4) 第4条第1項第3号に掲げる研究員のうちからグローバル女性リーダー育成研究機構長(以下「研究機構長」という。)が指名する者

(5) その他研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

【資料】⑧『ジェンダー研究』編集方針・投稿規定

《編集方針》

1. 『ジェンダー研究』(以下、本誌)は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

《投稿規定》

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する、原則として修士号取得相当以上とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。また、他誌などとの二重投稿は認めない。他で審査中のもの、掲載予定となっているものの投稿は、二重投稿とみなす。なお、この規程に違反した場合、新たな投稿を受け付けないなど、しかるべき措置をとる。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は、
 - ・ 日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 20000 字以内
 - ・ 英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 8500 ワード以内
 - ・ なお、1 図表 500 字相当、1 ページを要する場合は 1000 字相当とする
 - ・ 挿図の場合は、1 ページあたり 1000 字、刷り上がり 20 頁内に入ることを原則に、およそ 20 点までとして全体を構成する
 - ・ 挿図に用いる図版の掲載許可については、投稿者が自らの責任において然るべき手続きをとる。なお許可に要する費用は、投稿者負担とする。

* 定められた字数などの制限を超えた場合、形式において甚だしく不備がある場合には、受理できない。
- 6 論文の提出時には、以下をそれぞれ個別のデータファイルにして提出すること。6-1 から 6-3 までは Word ファイルで作成のこと。
 - 6-1 表紙。論文タイトル(副題も含む)と投稿者氏名・所属を日本語と英語とで記す。(タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。)
 - 6-2 要旨とキーワードを日本語と英語で提出。日本語は 400 字以内、英語は 200 ワード以内(ネイティブチェック済みのもの)。キーワードは日英ともに 5 語以内。
 - 6-3 本文。注と参考文献を含む。

6-4 図表・図版。図表は Word または Excel で作成。写真は JPEG または PDF で作成。

なお、執筆者を特定しうるいかなる情報(謝辞、科研番号)も 6-1 以外には記載してはならない。

- 7 投稿予定者は指定の期間に、ジェンダー研究所ウェブサイト上のエントリーフォームより、事前エントリーを行うものとする。エントリー後の投稿とりやめ、題目・内容の多少の変更は問題なく、連絡の必要もない。
- 8 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、アップロードすること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める<『ジェンダー研究』執筆要項>に従う。英語の投稿論文は Style Sheet for Journal of Gender Studies とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。ただし、本投稿規定・執筆要項や本誌の趣旨に合致しない原稿、また学術的論文としての水準を著しく達していないと判断された場合、審査の対象外とする場合もある。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、修正対応表をつけて、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則 2 回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

改訂

1. 2017 年 10 月 27 日制定
2. 2021 年 5 月 14 日改訂
3. 2024 年 1 月 16 日改訂

『ジェンダー研究』web サイト <https://www2.igs.ocha.ac.jp/gender/>

【資料】⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。

国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
ジェンダー研究所（IGS）
2024（令和 6）年度事業報告書

編集担当：申琪榮・和田容子

発行：お茶の水女子大学ジェンダー研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel: 03-5978-5846

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<https://www2.igs.ocha.ac.jp>

2025 年 9 月作成

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学 ジェンダー研究所

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University
2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610 Japan

TEL: 03-5978-5846 FAX: 03-5978-5845

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<https://www2.igs.ocha.ac.jp>

